

演題「給食施設における手荒れの実態について」

【目的】

弊社では、衛生管理の一環として、夏季の巡回時に手指、施設の拭き取り検査を実施している。2014年は黄色ブドウ球菌の陽性率が手指16.3%、施設8.5%であり、2015年は手指5.3%、施設6.2%であったことから、手指の黄色ブドウ球菌が、施設内を汚染することが示唆された。美味しく安全な食事を提供するには、手洗いや洗浄業務が非常に重要であるため、こまめな手洗いや温湯での食器洗浄などを指導しているが、同時に手の油脂をも奪うため、結果として手荒れにつながりやすい。手荒れによって黄色ブドウ球菌は増加すると言われるが、体質や環境など個々によって違うため、具体的な把握は出来ていない。そこで、弊社従業員に手荒れに関するアンケートを実施して黄色ブドウ球菌との関係を調査し、手荒れ改善について提案することで施設内の清浄を維持することを目的とした。

【方法】

弊社従業員1091名を対象に手荒れに関するアンケートを実施し、夏季の拭き取り検査の結果と比較した。対象者、施設の拭き取り検査を行い、一定期間ハンドケアを実施した後、再度拭き取り検査を行った。

【結果】

アンケートについては、回答数は926名で回収率は84.9%、うち918名を対象人数とした。手荒れに対する回答は、「している」が39.9%、「する時がある」が34.4%、「していない」が25.7%であり、手荒れをするタイミングでは特に冬季が多く72.6%、続いて常にしているのが22.6%であった。ハンドケアは全体で77.6%が行っており、手荒れをしている方がハンドケアをしている割合が高かった。また、アンケート結果と拭き取り検査の結果には関連性があった。

【結論】

手荒れは様々な条件から引き起こされるが、改善することで施設内の黄色ブドウ球菌による汚染リスクが低減される。衛生的な食事を提供するために今後も改善、提案していく。

演題「飲み会休暇症候群の概念と臨床的意義

－1 給食事業所における健診飲酒食事調査指導と外来症例実態の検討－

【目的】

飲み会(外食)や休暇習慣が、生活習慣病因子の発現・増悪に関与することに注目し、飲み会休暇症候群として提唱した(糖尿病学会)。一給食事業所での健診、飲酒食事調査と指導の影響を、外来例の実態と対比検討した。

【方法】

飲み会習慣をアルコール(以下ア)500Kcal以上の機会飲酒とし、外来(生活習慣病)受診者はア習慣ありで、10-11月に比し忘新年会の多い12-2月に体重2kg、腹囲2cm以上いずれか増加、下記項目の基準以上の変動(血圧・HbA1c・TG・FPG・2h-PG・アポB・LDL-C・尿酸の増加・HDL-C低下)の2因子以上を同症候群、1項目を疑いとした。

【結果と考察】

給食事業所:飲み会習慣あり10名;高血圧(>130mmHg)、 γ -GTP, TG高値は75-60-40%、DM 1例、習慣なし20名;(ア)500kcal未満、月1回以下:高血圧7%、他はなし。飲み会時の平均(ア)と食事摂取エネルギーは、あり;811、555kcal。なし;228、789kcal。(ア)量は収縮期血圧と正相関を($r=0.45$, $n=23$)、一方魚は収縮期血圧と野菜はBMIと負の相関傾向($r=0.40-0.5$, $n=16-14$)を示した。外来症例:該当41名で、HbA1c6.3→6.6%、TG129→160mg/dl、年末・年始に有意に増加した。非該当29名で、上記項目に有意の変動はなかった。3-4月以降飲み会減による改善例や遷延悪化例もあった。正月太りは知られているが、食事内容や休暇習慣の関与も想定される。

【結論】

1)アを含む過剰エネルギー摂取と休暇での低活動が生活習慣病因子の発症・増悪の要因となる。2)節酒・減エネルギーと野菜・魚摂取増加で、改善例や改善傾向が見られた。3)重なる飲み会、過剰エネルギー摂取・低活動習慣は、酒を嗜み、適正エネルギー内での味を楽しむ情報交換会への変貌を期待したい。